

◎緑化樹木の需給動向

「建設物価」等未掲載樹種の価格調査

緑化樹木調達難易度判定会議

はじめに

この価格調査は、「建設物価」等で掲載していない緑化樹木、グラウンドカバープランツ(GCP)のうち、需要者ニーズの高いものについて情報提供し、需給の円滑化に資することをねらいとしている。

実施主体は、緑化樹木調達難易度判定会議（（一財）日本緑化センター・（一社）日本植木協会）で、全国の調査モニターによる市場価格調査結果をもとに、判定会議による確認にもとづき行うものである。

調査対象は、緑化樹木、GCPおよび庭園樹木とし、樹種の内訳は、表1に示すとおりである

表1 調査対象樹種の内訳

	形態	樹種数	規格数	
緑化樹木	高中木	針葉樹	25	84
		常緑広葉樹	22	76
		落葉広葉樹	48	149
		小計	95	309
	低木	常緑広葉樹	13	23
		落葉広葉樹	15	18
		小計	28	41
合計		123	350	
GCP	ササ類	4	4	
	木草本類	70	76	
	ツル性類	27	29	
	マット栽培	1	1	
	水湿生植物	6	6	
	合計		108	116
庭園樹木	造形もの	針葉樹	8	44
		常緑広葉樹	11	47
		落葉広葉樹	6	20
		小計	25	111
	立台も付の株	常緑広葉樹	4	13
		落葉広葉樹	2	10
		小計	6	23
合計		31	134	
北海道	コンテナ栽培植物	91	97	

（調査結果の詳細は後掲「掲載価格の見方」を参照）。

なお、別掲の価格調査結果に示す調達難易度は、本誌の造園樹木と同じ次の5段階評価による。

A	生産に余裕があり、十分に調達が可能。
B	昨年程度の需要であれば、調達が可能。
C	昨年程度の需要でも、調達にはやや困難が予想される。
D	品不足の為、調達には相当困難が予想される。
E	非常に品不足なので、設計の際には事前に確認が必要とされる。
無記入	産地や利用が特定地域に偏っているため、難易度を表示しない。

緑化樹木をめぐる最近の動き

緑化樹木の生産にはもともと地域性があり、全国で一様に生産されている訳ではない。樹種別に捉える場合、生産樹種は特定の都道府県に集中しているか、多くの地域で作られているか、前回のコンテナ栽培樹木に続き今回は露地栽培樹木を例に、それらの動きについて検討する。

露地栽培樹木の供給可能量を2010年度から5年毎の推移でみると、直近5年間では、高中木針葉樹と低木常緑樹は減少、高中木の常緑広葉樹・落葉広葉樹が増加、低木落葉樹は横ばいを示す（表2）。

2020年度に露地で栽培されている高中木と低木を合わせた314樹種について、供給している都道府県数（以下、供給県数）のヒストグラムを描く

表2 露地栽培樹木の形態別数量の推移

（数量：千本）

区分	2010年	2015年	2020年
高中木針葉樹	2,051	1,443	824
常緑広葉樹	1,640	2,042	2,125
落葉広葉樹	1,463	941	1,090
低木常緑樹	12,861	9,245	8,325
落葉樹	1,869	1,040	1,035

と、供給県数10～14県の樹種が最も多く99樹種（全体の31.5%）、次いで5～9県の供給が84樹種（同26.8%）となり、両方合わせて全体のほぼ6割（58.3%）を占める。一方、最も多い20県以上で供給されているのは12樹種見られる（図1）。

では、高中木と低木に分けると、高中木220樹種は10～14県72樹種、5～9県56樹種、両階層でおよそ6割（58.2%）を占め、20県以上は12樹種となる。低木94樹種の方は1～4県、5～9県、10～14県の3階層でほぼ拮抗し（27～29樹種）、合わせて約9割（89.4%）となる（図2）。

これらを形態別に分けてみると、高中木の針葉樹50樹種は、供給県数10～14県が最も多く（21樹種）これに15～19県までの12樹種を加えると7割

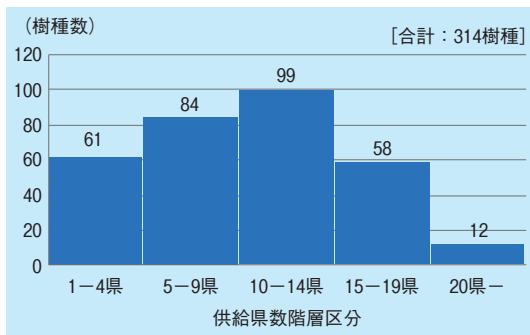


図1 露地栽培樹木の供給県数階層別樹種数

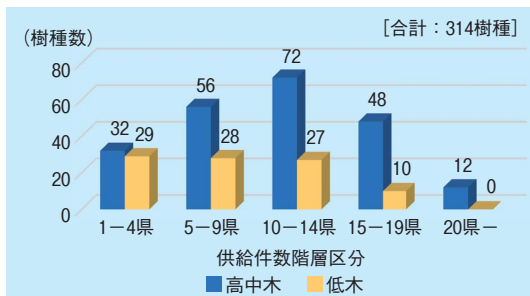


図2 露地栽培樹木高中木・低木の供給県数階層別樹種数

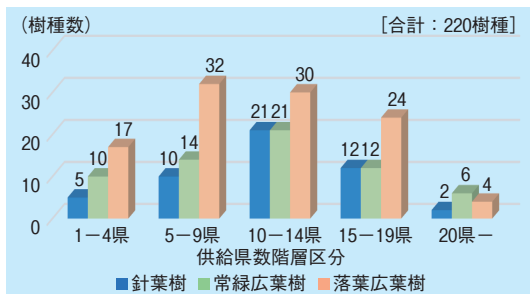


図3 露地栽培樹木高中木の供給県数階層別樹種数

弱（66.0%）となる。常緑広葉樹63樹種は10～14県（21樹種）、次いで5～9県（14樹種）、20県以上が6樹種ある。落葉広葉樹107樹種は5～9県（32樹種）と10～14県（30樹種）がほぼ均衡し、20県以上が4樹種みられる（図3）。

さらに、低木94樹種について、常緑樹50樹種は供給県数1～4県と5～9県が同数（各15樹種）、15県以上の階層8樹種がみられる。落葉樹44樹種は1～4、5～9、10～14県の3階層（13～15樹種）がほぼ並んでいる（図4）。

図1で示したように、20県以上の多くの地域で供給されているものを抽出すると、12樹種が該当する（表3）。この中で最も供給県数の多いのはシラカシの26県、次いでイロハモミジの25県、3番目にソメイヨシノ23県の順となる。これら12樹種は需要が安定し、全国的に消費されていることから、生産する県も多くなる傾向を示すと考えられる。

さて、多くの地域で生産されている樹種に対して、1県で7割を超えるシェアを有するものもあり、93樹種が該当する（図5）。内訳を見ると

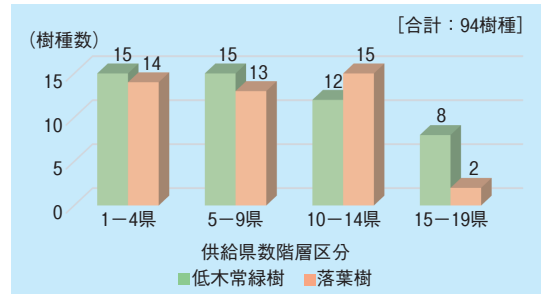


図4 露地栽培樹木低木の供給県数階層別樹種数

表3 供給県数20以上の樹種

供給県数	樹種名	本数(本)
26	シラカシ	151,832
25	イロハモミジ (含ヤマモミジ)	66,118
23	ソメイヨシノ	89,435
22	キンモクセイ	81,511
	イロハモミジ (含ヤマモミジ) <株立もの>	48,136
21	Thuja. oc. 'ヨーロッパゴールド'	12,515
	クロマツ	65,663
	ソヨゴ (株立もの)	38,747
20	アラカシ	25,576
	カクレミノ	22,646
	シラカシ (株立もの)	43,210
	アオダモ	6,552

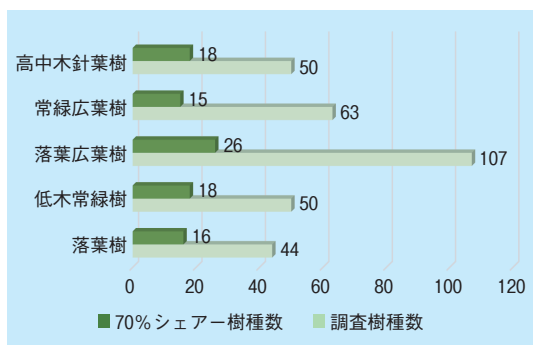


図5 形態別の樹種数と70%シェア樹種数

高中木針葉樹、低木常緑樹・落葉樹は調査樹種数の4割弱（36%）、また高中木の常緑広葉樹・落葉広葉樹ではほぼ4分の1が（24%）、1県で7割以上の供給力を持っている。さらに、この93樹種を都道府県に振り分け、1県で7割シェア樹種を保有する上位県は、茨城（21樹種）、愛知（12）、鹿児島（9）、福岡・千葉（7）となる。

表3に掲載した12樹種に、15～19県によって供給されている58樹種を合わせた（表4）、70樹種が現状では比較的需要と供給のバランスが維持しやすい樹種の目安と見なすこともできる。

表4 供給県数15～19の樹種

供給県数	樹種数	樹種名
19	6	アオダモ（株立もの）、コブシ、サルズベリ、シダレザクラ類、ヤマボウシ、ヤマボウシ（株立もの）
18	8	コナラ、サツキ、ソヨゴ、ドイツトウヒ、ドウダンツツジ、ハナミズキ（赤）、ヒメシャラ、ヤブツバキ
17	13	Juni. sc. ‘ブルー エンジェル’、Thuji. oc. ‘スマラグ’、アオキ、アベリア、アメリカサイフリボク（株立もの）、イチイ、ウバメガシ、オリーブ、カツラ、キンメツゲ、ケヤキ、ハナミズキ（白）、ブンゲンストウヒ類
16	19	Cupr. レイランディー、Thuji. oc. ‘グリーンコーン’、アスナロ、アラカシ（株立もの）、イチヨウ、ウメ類（赤）、ウラジロモミ、エゴノキ、エゴノキ（株立もの）、サワラ、シマトネリコ（株立もの）、ジョウリョクヤマボウシ、スタジイ、タブノキ、ナツツバキ、ノムラモミジ（含ショウジョウノムラ）、ヒイラギナンテン、モチノキ、ヤマザクラ
15	12	アカマツ、アジサイ類、アセビ、ウメ類（白）、オタフクナンテン、カツラ（株立もの）、ケヤキ（株立もの）、コノテガシワ ‘エレガントシマ’、ヒメシャラ（株立もの）、ボックスウッド、マテバシイ、モッコク

トピックス：マングローブに対する人々の意識

BBC ウェブサイト「将来の惑星」の掲載記事から、地球温暖化に立ち向かうマングローブ林に対する人々の意識の変化について紹介する¹⁾。

マングローブの役割を転換する

ケニア東海岸の壮大なマングローブ林は密猟と伐木のレベルを下げることに役立つ一方で、大量の炭素を大気に放出していた。

ケニア野生生物局によれば、この広い地域でサイやゾウなど象徴的な野生生物の違法な密猟が最近6年間で90%まで減少しているという。ケニア海岸州にある多くの村落の1つGaziは、近年、劇的に密猟や森林の違法伐採が減っている。Gaziにおいて、最も大きな変化が起こったのは村落のマングローブ林であり、それまで薪や建築材の供給源であったものから、地域経済における重要なプレイヤーになっている。

マングローブは惑星のスポンジ

マングローブ林1haは熱帯雨林4haと同じ量の炭素を貯えることができる。その大部分はマングローブが根を下ろし、頻繁に水に浸かっている深い豊かな土壌の中に隔離されている。マングローブ林を切り倒すことは、この場所へ炭素の吸収を妨げ、さらに土壌に貯えられた炭素を放出させることになる。まさしく、マングローブ林は惑星の炭素に対して、ある種の最も効率的な“スポンジ”といえる。

米国森林局²⁾によると、緯度30°、経度73°の領域にあるインド洋の広範な地域に分布する25カ所のマングローブ林は面積と多様性が最も大きい。マングローブは熱帯で最も炭素に富む森林の中にあって、ha当たり平均1.023トンの炭素を貯えている。深さ0.5～3mを超える範囲にある有機質に富む土壌の炭素貯蔵量は全体の49～98%を占める。マングローブ林の伐採は1年当たり2千～1億2千万トンの炭素排出を引き起こす。それは、熱帯林面積の僅か0.7%を占めるに過ぎないにも拘らず、地球全体で森林伐採により排出されるおよそ10%と同じ量に相当する。

Gaziの豊かな海岸林はケニアに生育するマングローブ9品種すべてはもとより、多様な鳥類や

魚類180種の生育地でもある。

カーボンプロジェクトは 森林を銀行と見なす

2013年に、Gazi周辺のマングローブ林117haを保護するため、Mikoko Pamoja カーボンプロジェクトが始まった。沿岸の地元コミュニティ、ケニア海洋漁業研究所、スコットランドの慈善団体Plan Vivo財団が提携し、炭素をマングローブ林に貯蔵するブルーカーボン（海洋生態系の生物活動で固定される炭素の総称、地球全体で固定される炭素の55%に相当）への転換を進め、コミュニティを経済的に支援する最初のプロジェクトであった。

しくみは簡単だ。ケニアの海岸マングローブの健康を保証する見返りに、プロジェクトはカーボンクレジット（排出枠）を販売する。購入した企業や国は、“オフセット”の形で自らの削減量として使用する。

最初のステップは森林の損失や劣化を減らすことであった。まず、地元住民が建築材や薪に消費していたマングローブの代替源として、トキワギョリュウ (*Casuarina equisetifolia*) の植林地を造成した。次に、村の参加者たちはカーボンクレジットを作ることでマングローブ保全から得られる経済的恩恵について教育と訓練を受けた。最終的に、コミュニティはマングローブ植樹イニシアティブを主導し、苗圃で6~7カ月間育てた苗木を、割当区画に植樹した。

収益を生み出す戦略は、毎年マングローブ林117haが1年間に吸収する3,300トンのCO₂に相



写真 Mikoko Pamoja カーボンプロジェクト冊子の表紙写真（出典：UNDP（2020）：Mikoko Pamoja Kenya, Equator Initiative Case Studies）

当する排出枠を取引する。これは毎年道路を走る車約650台分の排出量に相当する。

やがて、Gaziの南約60kmに位置する村、Vangaにおける同様の460haのブルーカーボンプロジェクトが誕生する。

これはMikoko Pamojaプロジェクトの成功の後を追うもので、Gazi湾における新たなコミュニティ主導のマングローブ保全再生プロジェクトである。コミュニティ森林プロジェクト向けの独立第3者機関により管理されているボランティア・カーボン市場で、カーボンクレジットを販売してマングローブ保全基金を造成する。これにより、地域の漁業コミュニティの8,000人の生活を支援する³⁾。

ケニアにおけるカーボントレーディング・スキームのもとには、全体としておよそ66万haの土地があり、その中でブルーカーボンは依然小さなものである。これらのカーボンプロジェクトの成功は、人々に成長機会があることを確信させることによって、気候変動に対する人々の理解を変えつつある、とREDD+のケニアコーディネーターは言う。

(REDD+：森林減少・劣化の抑制、森林保全、持続可能な森林経営および森林炭素蓄積の増加に資金など経済的インセンティブを与え、排出削減を行おうとするもの)

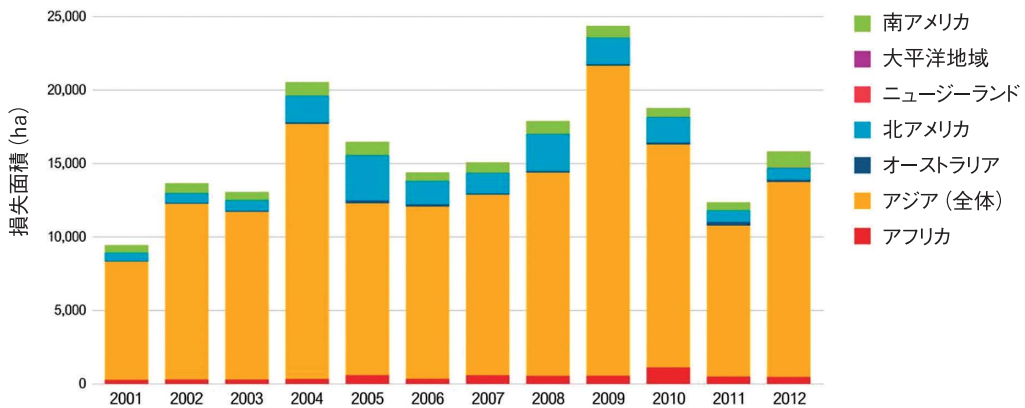
もしカーボンプロジェクトが村落で人々に仕事を創出できるなら、その時社会は森林や野生生物を自分たちの銀行だと見なし始めるだろう。

仕事のない状態はケニアで密猟や不法伐採に通常若者が従事する理由となり、プロジェクトの波及効果には違法伐採や密猟のような環境犯罪の減少も含まれる。

1980年代に、Tsavo国立公園にはサイがたった3頭しかいなかった。マングローブ林がケニア南東部へ扇形に広がり、国土の后背地と沿岸地域をつなげたことから、現在、サイは120頭まで増えている。

ケニア森林局は国土の森林被覆が5%未満から7%へ成長したことは、Gaziで行われている保全努力の結果である、と言う。カーボンクレジット・スキームと並行して、法的処置の増加や地元コミュニティとの連携がかみ合って環境犯罪を減らすことに役立っている。

海岸州南東部にあるKwale郡のマングローブ林8,000haを含む、森林34,000haの生態系保全管



出典：Asa Strong (2015) : Satellite Data Reveals State of the World's Mangrove Forests, <https://www.wri.org/insights/satellite-data-reveals-state-worlds-mangrove-forests>

図6 マングローブ林の被覆面積の損失 (2001-2012年)

理者は、カーボンプロジェクトは沿岸地帯における違法伐採や密猟の減少に役立ち、もしコミュニティが森林から経済的な恩恵を受けるならば、人々は森林を守ろうとする熱烈な願望を持つだろう、と言う。

プロジェクトに関わっていない地元のある漁師は、その恩恵に気付いている。人々がマングローブ林から薪の採取を止めた後で魚が戻ってきた。このプロジェクトはまさにゲーム・チェンジャー(考え方を根本から変える出来事)だ。さらに多くのブルーカーボン・スキームが設定され、ケニアで本格的に展開することで、Gaziや他の村落の人たちは保全されたマングローブ林から得られるさらなる恩恵を理解できる。

マングローブ林は自然の緩衝装置

炭素吸収と同様に、森林は、高潮やある程度の海面上昇など、気候変動の及ぼすいくつかの悪影響に対する自然の緩衝装置となる。

マングローブの根は高潮の力を分散し、エネルギーを幾分吸収することで、サイクロンのダメージから沿岸に暮らす人々を守る。それは地域経済の価値を保全することへの挑戦であり、個々のマングローブ生態系を保護することでもある⁴⁾。

多くの熱帯デルタ地域はさらに沈下を続け、相対的な海面上昇を増大させている。マングローブを持続することは相対的な海面上昇の高まりに穏やかに対処する能力を暗示させる。しかしながら、多くの人的プレッシャーがマングローブの脅威となり、結果として熱帯全域でそれらの広がりを減

小さく続けている⁵⁾。

世界のマングローブは都市開発、農業や水産養殖の拡張などを通して絶え間なく失われつつある。衛星データの解析結果から、世界は2001~2012年の間にマングローブ林を19万2千ha失っている(図6)。Gaziのようなプロジェクトは、気候変動に対抗して森林を救い、地元にもたらす可能な方法といえる。

参考文献

- 1) David Njagi (2021) : How mangrove forests helped stall environmental crime, <https://www.bbc.com/future/article/20210423-kenyas-unusual-solution-to-illegal-poaching-and-logging>
- 2) Daniel C. Donato & others (2011) : Mangroves among the most carbon-rich forests in the tropics, <https://www.nature.com/articles/ngeo1123>
- 3) Oceanographic Staff : Carbon credit trade boosts mangrove conservation in Kenya, <https://www.oceanographicmagazine.com/news/mangrove-conservation-kenya/>
- 4) Adam Moolna (2019) : How mangroves protect people from increasingly frequent and powerful tropical storms, <https://theconversation.com/how-mangroves-protect-people-from-increasingly-frequent-and-powerful-tropical-storms-118200>
- 5) C.D. Woodroffe (2016) : Mangrove Sedimentation and Response to Relative Sea-Level Rise, <https://www.annualreviews.org/doi/abs/10.1146/annurev-marine-122414-034025>

写真でみる緑化樹木等の一例 (1)

[緑化樹木調達難易度判定会議]

～花を愛でる～

写真解説 ①樹種名 ②生産地 ③写真提供社園



①エゴノキ (ピンクチャイム)
②兵庫県 ③若生商店



①ノリウツギ (ダルマ)
②東京都 ③石川園



①フェイジョア
②東京都 ③小金井園



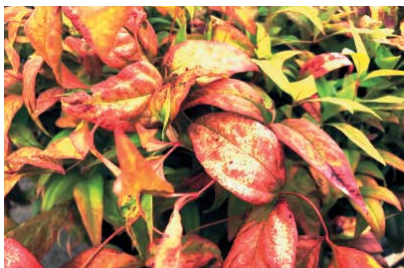
①ヤマボウシ
②神奈川県 ③小田原植木

写真でみる緑化樹木等の一例(2)

[緑化樹木調達難易度判定会議]

～ GCP ～

写真解説 ①樹種名 ②生産地 ③写真提供社園



①オタフクナンテン
②三重県 ③ NURSERY YAMADA



①セダム (サンダークラウド)
②高知県 ③岡宗農園



①セラスチュウム
②秋田県 ③田村山林緑化農園



①ツバキ
②愛知県 ③加藤グリーンサプライ



①ビバーナム (レイファーズドワーフ)
②高知県 ③岡宗農園



①ラベンダー
②埼玉県 ③グリーンファーム・アンドウ



①ヒューケラ (パレスパープル)
②神奈川県 ③飯田園芸



①フッキソウ
②神奈川県 ③飯田園芸

写真でみる緑化樹木等の一例 (3)

[緑化樹木調達難易度判定会議]

【令和2年度 認定「特別庭園樹木(名木)」】

写真解説 ①樹種名 ②規格 ③推定樹齢 ④写真提供社園



①クロマツ ②H6.5m C1.5m W6.0m
③500年 ④秋田(北日本管与)



①クロマツ ②H6.3m C1.35m W5.0m
③450年 ④秋田(北日本管与)



①クロマツ ②H4.8m C1.65m W5.5m
③500年 ④秋田(北日本管与)



①アカマツ ②H3.7m C1.28m W4.5m
③350年 ④秋田(北日本管与)

掲載価格の見方

(一社) 日本植木協会

I. 価格の調査基準

1. 調査対象樹種・規格

※「建設物価」に未掲載の樹種、規格を調査対象とする。

①緑化樹木

『建設物価』掲載の樹種でその最大規格より大きく、かつ幹周=1.5mを超える超大径木より小さい範囲の樹木及び『建設物価』未掲載の樹種としている。

②グラウンドカバープランツ

『建設物価』未掲載の樹種・規格のもの。

③庭園樹木

2. 調査方法

※調査は、下記の「緑化樹木調達難易度判定会議」によって実施された。

(一財) 日本緑化センター及び(一社) 日本植木協会が組織する「緑化樹木調達難易度判定会議」により、(一社) 日本植木協会会員の中から調査モニターを選定。緑化樹木モニター(対象樹種の主要産地29都道府県90社)、コンテナ栽培植物モニター(32都道府県102社)、庭園樹木モニター(29都道府県91社)へ調査を行った。

3. 調査期間

2021年4月1～30日

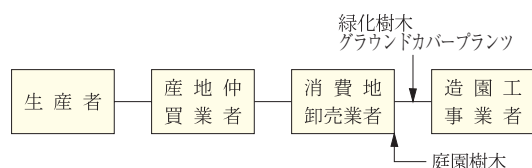
4. 掲載価格(希望価格)

上記調査方法によって収集されたデータを、「緑化樹木調達難易度判定会議」において集計し、各対象樹種の最大値、最小値、平均値を算出し、これを掲載価格とした。

なお価格は、卸売業者が造園工業者に販売するときの**希望価格**であり、本誌404ページ以降に掲載している(一財)建設物価調査会が調査した樹木価格(市中での実取り引き価格=実勢価格)とは、価格の性質が異なる。

5. 調査段階

▼印が調査段階である(下図参照)。



6. 荷渡し場所

緑化樹木・グラウンドカバープランツは植栽現場持ち込み、庭園樹木は卸売業者積み込み渡しとしている。

7. 価格の適用

●緑化樹木・グラウンドカバープランツ

掲載価格は植栽現場持ち込み価格で、生産地価格に積み込み費、積み降ろし費、運搬費、その他流通経費を加算した価格。ただし、現場で工事に当たる造園工事業者の植え付け費、養生費などの工事費、一般管理費、枯補償費は含まない。

●庭園樹木

掲載価格は卸売業者積み込み渡し価格である。よって、工事現場までの運賃は含まない。

8. 調達難易度

調達難易度の判定は、供給力の度合いに応じて5段階で評価している。生産地モニター、消費地モニターの判定結果である。

A	生産に余裕があり、十分に調達が可能。
B	昨年程度の需要であれば、調達が可能。
C	昨年程度の需要でも、調達にはやや困難が予想される。
D	品不足の為、調達には相当困難が予想される。
E	非常に品不足なので、設計の際には事前に確認が必要とされる。
無記入	産地や利用が特定地域に偏っているため、難易度を表示しない。

II. 留意事項

1. 掲載地区について

掲載地区は以下のとおりである。

掲載地区	該 当 都 市
北海道	札幌市内
関東	東京都区内
中部	名古屋市内
関西	大阪市内
九州	福岡市内

2. 表示価格の特例

サンプル数が十分得られない地域については、「…」で表示をしている。

平均値は端数処理の関係から、最大値または最小値と同値の場合がある。

3. 更新情報等・問い合わせ先

価格の更新情報、調査方法等に関するお問い合わせは(一社)日本植木協会、緑化樹木調達難易度判定会議までお願いします。

URL : <https://www.ueki.or.jp>

TEL : (03) 3586-7361 (代)

樹種名	規格			状態	関東			中部			関西			九州			調達 難易度
	コナジ径	H	C		W	最大値	最小値	平均値	最大値	最小値	平均値	最大値	最小値	平均値	最大値	最小値	
セイヨウオダマキ	9.0				920	790	850	870	690	780	870	660	770	930	750	850	B
セイヨウノキギリソウ	10.5				800	690	740	750	690	720	760	630	700	820	700	770	B
セダム類	9.0				600	500	540	600	510	540	590	530	560	620	550	580	A
セラスチュウム	9.0				770	650	700	720	600	660	720	590	660	770	660	730	B
ダイアンサス	9.0			3芽立	600	500	540	620	530	570	570	530	550	640	550	600	A
ツワブキ	18.0			大鉢仕立て	3,800	3,000	3,400	4,300	3,700	4,000	4,000	3,300	3,700	4,300	3,700	4,000	C
ニッコウキスゲ	10.5				770	650	700	800	690	750	760	670	720	820	670	760	C
ノシラン	24.0			大鉢仕立て	5,600	4,700	5,000	5,600	4,700	5,100	5,200	4,300	4,600	5,600	4,800	5,200	D
ハシネズ	15.0	0.30			2,200	1,900	2,000	2,200	1,900	2,000	2,100	1,600	1,800	2,300	2,000	2,200	D
ハマギク	10.5				770	650	700	780	670	710	720	630	680	780	670	730	B
ハマゴウ	10.5	0.30			1,000	850	920	950	840	890	940	770	860	970	780	890	B
ハマヒルガオ	10.5				890	750	800	900	760	800	830	740	790	910	720	820	C
ハラン	18.0			大鉢仕立て	4,200	3,500	3,800	5,000	4,200	4,600	4,200	3,600	3,900	4,800	4,000	4,400	C
パンパスグラス	10.5				1,100	910	1,000	1,100	870	940	1,100	850	980	1,200	950	1,100	B
〃	18.0			大鉢仕立て	5,600	4,700	5,000	5,600	4,800	5,000	5,200	4,200	4,500	5,600	4,800	5,200	C
〃	30.0			大鉢仕立て	14,000	12,000	13,000	13,000	11,000	12,000	14,000	9,800	11,000	14,000	12,000	13,000	C
ヒマラヤユキノシタ	10.5			3枚葉	890	760	820	900	800	840	870	770	820	930	780	870	B
ヒメウツギ	15.0			大鉢仕立て	2,200	1,800	2,000	2,200	2,000	2,100	2,000	1,500	1,700	2,200	2,000	2,100	C
フィリアマドコロ	10.5				850	750	800	840	710	760	830	740	790	880	750	830	B
フサザクスイセン	10.5				710	600	650	720	600	640	700	610	660	720	640	680	B
ミソハギ	10.5				770	650	700	760	670	700	720	630	680	790	660	740	B
ミンソト	9.0				710	600	650	730	640	680	660	570	620	710	620	670	A
ムスカリ	9.0			3球	710	600	650	700	560	610	660	570	620	710	610	670	A
ムラサキカタバミ	10.5				740	620	670	740	600	650	690	580	640	770	650	720	D
メギアロバ-ブレアナ'	15.0		0.15		3,500	3,100	3,300	3,500	3,000	3,200	3,500	2,700	3,000	3,700	3,200	3,500	C
メギ'オーレア'	10.5	0.20			1,700	1,500	1,600	1,700	1,600	1,600	1,700	1,300	1,500	1,700	1,400	1,500	C
メギ'ローズグロウ'	10.5	0.20			1,700	1,400	1,500	1,700	1,500	1,600	1,600	1,300	1,400	1,600	1,300	1,400	B
〃	15.0	0.40			3,200	2,700	2,900	3,200	2,900	3,000	3,000	2,500	2,700	3,500	2,900	3,200	C
モントブレチア	10.5				740	620	670	760	660	710	750	620	690	780	650	730	B
ヤブカンゾウ	10.5				740	620	670	770	650	710	750	640	700	770	650	720	C
ヤマユリ	10.5			球	2,500	2,100	2,300	2,600	2,200	2,400	2,400	1,900	2,100	2,600	2,300	2,500	C
ユリオブスデージー	10.5				740	620	670	760	660	710	750	630	690	790	670	740	B
ラインゴルド	10.5		0.10		1,500	1,300	1,400	1,500	1,400	1,400	1,500	1,100	1,200	1,400	1,200	1,300	C
〃	15.0		0.20		3,000	2,500	2,700	3,000	2,600	2,800	2,800	2,400	2,600	3,000	2,800	2,900	C
ラベンダー	9.0				740	620	670	770	660	710	690	570	630	770	640	710	A
ローズマリー	9.0			1本立	740	620	670	760	640	700	690	570	630	750	640	700	A
<つる性類>																	
クレマチス	9.0			1年生	1,200	1,000	1,100	1,200	980	1,000	1,200	920	1,060	1,200	1,100	1,200	B
ツルウメ	9.0	0.30			1,200	1,000	1,100	1,200	920	1,000	1,200	890	1,050	1,200	960	1,100	C
ツルバラ	10.5	0.30			3,000	2,600	2,800	3,000	2,600	2,800	2,900	2,300	2,500	3,100	2,800	3,000	C
テリハノイバラ	10.5	0.30			1,200	980	1,100	1,200	980	1,100	1,100	900	1,000	1,300	950	1,100	B
トケイソウ	10.5	0.20			1,200	980	1,100	1,200	910	1,000	1,100	920	1,000	1,200	980	1,100	B
ナツユキカズラ	10.5	0.20			1,200	980	1,100	1,300	1,100	1,200	1,200	940	1,100	1,300	1,100	1,200	C
ノウゼンカズラ	10.5			根元径3mm	900	760	820	920	790	840	860	720	790	910	780	850	B
ハトスヘデラ	10.5	0.20			1,300	1,100	1,200	1,300	1,100	1,200	1,300	950	1,100	1,300	1,200	1,300	C
ピンカマジョール	9.0			3芽立	600	500	540	600	500	530	580	490	540	620	500	560	A
ピンカマジョール(狭入)	9.0			3芽立	650	550	590	640	560	590	610	520	570	650	580	610	A
ピンカミノール(狭入)	9.0			3芽立	770	650	700	760	660	690	720	590	660	790	670	740	A
ヘデラ・カリエンシス・パリエガタ	10.5	0.30		3本立	770	650	700	800	690	740	800	660	730	790	690	750	B
ヘデラ・ヘリックス・アイバルス	9.0	0.20		3本立	800	710	750	800	710	750	790	640	720	800	670	730	B
ヘデラ・ヘリックス・ゴルドチャイルド	9.0	0.20		3本立	770	650	700	800	690	730	780	620	700	820	700	760	C
ヘデラ・ヘリックス・バルチカ	9.0	0.20			800	710	750	800	710	750	790	650	720	820	720	770	D
ヘデラ・ヘリックス・グランドフォドタイフ	9.0	0.20		3本立	800	710	750	800	730	760	790	660	730	820	730	770	C
ミヤマタタピ	10.5	0.20			1,600	1,300	1,400	1,600	1,400	1,500	1,500	1,200	1,300	1,400	1,200	1,300	D
モッコウバラ	10.5	0.20			1,500	1,200	1,300	1,500	1,200	1,300	1,400	1,100	1,200	1,600	1,200	1,400	B
<つる長尺物>																	
カロライナジャスミン	15.0	2.50			15,000	13,000	14,000	14,000	13,000	14,000	15,000	12,000	13,000	15,000	13,000	14,000	D
ウイ	15.0	2.50			16,000	14,000	15,000	16,000	14,000	15,000	16,000	12,000	14,000	16,000	14,000	15,000	D
スイカズラ(赤花)	15.0	2.50			16,000	14,000	15,000	15,000	13,000	14,000	16,000	12,000	14,000	16,000	12,000	14,000	D
ツクヌキニンドウ	15.0	2.50			16,000	14,000	15,000	15,000	13,000	14,000	16,000	12,000	14,000	16,000	12,000	14,000	C
テイカズラ	15.0	2.50			15,000	13,000	14,000	15,000	13,000	14,000	15,000	12,000	13,000	15,000	12,000	14,000	B
ピナンカズラ	15.0	2.50			15,000	13,000	14,000	15,000	14,000	14,000	15,000	12,000	13,000	15,000	12,000	14,000	B
ヘデラ・カナリエンシス	10.5	0.60			1,400	1,200	1,300	1,300	1,200	1,200	1,400	1,000	1,200	1,300	1,000	1,100	B
〃	10.5	1.00			2,000	1,700	1,800	2,400	1,800	1,900	1,900	1,600	1,700	2,200	1,900	2,100	B
ヘデラ・ヘリックス	10.5	0.60			1,200	1,100	1,100	1,200	1,100	1,200	1,300	950	1,100	1,200	1,000	1,100	B
〃	10.5	1.00			2,000	1,700	1,800	2,300	1,700	2,000	1,900	1,400	1,600	2,200	1,600	1,900	B
〃	15.0	2.50			16,000	14,000	15,000	15,000	13,000	14,000	16,000	12,000	14,000	16,000	12,000	14,000	B
<マット栽培品>																	
スキゴケ				m当たり	25,000	22,000	23,000	25,000	22,000	23,000	25,000	19,000	21,000	26,000	22,000	24,000	B
<水生植物>																	
ガ	マ	10.5			900	800	850	900	810	850	880	740	810	910	780	850	C
コウホネ	12.0			株	2,800	2,500	2,600	2,700	2,300	2,500	2,800	2,100	2,300	2,800	2,400	2,600	C
シベラ	10.5				2,000	1,500	1,700	1,800	1,600	1,700	1,700	1,400	1,500	2,000	1,600	1,800	B
スイレ	12.0			株	2,400	2,100	2,300	2,500	2,100	2,200	2,400	1,900	2,100	2,400	2,100	2,300	B
ミズバシヨウ	10.5				2,600	2,300	2,400	2,700	2,300	2,400	2,600	2,100	2,300	2,700	2,300	2,500	C
ヨ	10.5				870	770	810	870	760	810	850	720	790	900	780	840	C

2021年度 緑化樹木ほか北海道地区価格調査表 現場持込希望価格 (単位: 本・鉢)

樹種名	規格				最大値	最小値	平均値	調達 難易度	樹種名	規格				最大値	最小値	平均値	調達 難易度
	コンテナ 径	H/L	W	状態						コンテナ 径	H/L	W	状態				
<針葉樹>	(cm)	(m)	(m)						ドウダンツツジ	15.0	0.5	0.20		4,900	4,500	4,800	A
アカエゾマツ	15.0	0.5			3,100	2,900	3,000	A	ハコネウツギ	15.0	0.5		3本立	3,100	2,900	3,000	C
イチイ	12.0	0.3			2,800	2,600	2,800	D	ハスカップ	15.0	0.5			5,300	4,900	5,200	B
カラマツ	12.0	0.5			1,900	1,800	1,900	A	ハマナス	15.0	0.4	0.20		3,900	3,600	3,800	A
クロマツ	12.0	0.5			2,600	2,400	2,600	D	ハマナス(品種物)	15.0	0.3			5,900	5,400	5,700	C
ゴヨウマツ類	15.0	0.5			3,000	2,800	3,000	D	ブルーベリー	12.0	0.5			4,800	4,400	4,700	B
ドイツトウヒ	15.0	0.5			2,500	2,300	2,400	B	ベニウツギ	15.0	0.5		3本立	3,700	3,400	3,600	C
トドマツ	15.0	0.5			2,800	2,600	2,800	B	ヤマツツジ	15.0	0.5	0.25		6,200	5,700	6,000	C
ニオイヒバ	15.0	0.5			2,600	2,400	2,600	B	ヤマハギ	15.0	0.5		3芽	2,200	2,100	2,200	B
ブンゲンストウヒ類	15.0	0.5			5,300	4,900	5,200	C	レンギョウ	15.0	0.5		3本立	2,600	2,400	2,600	B
メタセコイア	10.5	0.5			2,500	2,300	2,400	D	ローズハマナス	15.0	0.4			5,300	4,900	5,200	D
<落葉広葉樹>									ロウバイ	15.0	0.4			3,900	3,600	3,800	C
アカナラ	10.5	0.5			2,500	2,300	2,400	D	ロウバイ(品種物)	15.0	0.3			4,600	4,200	4,400	C
イタヤカエデ	10.5	0.5			2,200	2,100	2,200	B	<グラウンドカバー類>								
エゾヤマザクラ	10.5	0.5			2,000	1,900	2,000	B	アガパンサス	10.5				1,600	1,500	1,600	C
〃	15.0	1.0			3,000	2,800	3,000	B	アジュカレプタンス	9.0				730	670	710	B
カシワ	12.0	0.3			2,500	2,300	2,400	C	アスチルベ	10.5				1,100	1,000	1,100	A
カツラ	10.5	0.5			2,200	2,100	2,200	B	アメリカツルマサキ(ガイディー)	10.5			3芽	740	680	720	C
〃	15.0	1.0			2,900	2,700	2,800	C	イブキジャコウソウ	9.0				700	640	680	B
ギンドロ	15.0	1.0			2,000	1,900	2,000	C	エリカ・カルーナ類	15.0				3,000	2,800	3,000	D
コブシ	10.5	0.5			3,000	2,800	3,000	D	オオブリエチア	9.0				930	850	900	B
〃	15.0	1.0			4,900	4,500	4,800	D	カキツバタ	10.5				1,700	1,600	1,700	C
サルナシ(コクワ)	12.0	0.3			2,200	2,100	2,200	D	ガマ	10.5				1,800	1,700	1,800	C
シナノキ類	10.5	0.5			2,900	2,700	2,800	D	キリンソウ	9.0				820	750	790	A
〃	15.0	1.0			4,600	4,200	4,400	D	クサソテツ	12.0				1,400	1,300	1,400	C
シラカバ	10.5	0.5			1,700	1,600	1,700	B	クマザサ	12.0			3芽	1,500	1,400	1,500	B
ダケカンバ	10.5	0.5			1,900	1,800	1,900	C	クリスマスローズ	10.5				1,600	1,500	1,600	B
〃	15.0	1.0			2,800	2,600	2,800	D	コルチカム	10.5				1,600	1,500	1,600	B
ツルアジサイ	9.0				1,700	1,600	1,700	D	ジャーマンアイリス	10.5			株	1,600	1,500	1,600	C
ツルウメモドキ	10.5	0.3			1,900	1,800	1,900	D	シャスターデージー	9.0			3芽	710	650	690	C
トチノキ	10.5	0.5			2,800	2,600	2,800	D	シュウメイギク	9.0				1,500	1,400	1,500	B
ドロノキ	15.0	1.0			2,600	2,400	2,600	B	スイセン	10.5				690	630	660	B
ナナカマド	10.5	0.5			2,000	1,900	2,000	A	セダム類	9.0				710	650	690	B
ニセアカシア	10.5	0.5			1,700	1,600	1,700	D	テリハノイバラ	10.5				1,200	1,100	1,200	C
ネコヤナギ	10.5	0.5			2,000	1,900	2,000	D	ハイバクシン類	15.0	0.3			3,000	2,800	3,000	B
ハルニレ	10.5	0.5			2,000	1,900	2,000	C	〃	15.0			w=0.25	3,900	3,600	3,800	C
ミズナラ	12.0	0.5			2,200	2,100	2,200	A	ハナシヨウブ	10.5			3芽	1,400	1,300	1,400	B
ミヤマタタビ	10.5	0.2			2,200	2,100	2,200	D	ハマギク	10.5				1,400	1,300	1,400	B
ヤエザクラ	15.0	1.0			2,700	2,500	2,600	B	ヒベリカム・カリシナム	10.5			3芽	930	850	900	C
ヤチダモ	10.5	0.5			2,200	2,100	2,200	A	ヒマラヤユキノシタ	10.5				1,400	1,300	1,400	C
ヤマハンノキ	10.5	0.5			1,900	1,800	1,900	C	フイリヤブラン	10.5			3芽	930	850	900	A
ヤマブドウ	10.5				1,800	1,700	1,800	D	フロックス	10.5				1,400	1,300	1,400	B
ヤマモミジ	10.5	0.5			2,800	2,600	2,800	B	ヘデラ・ヘリックス	9.0				1,100	960	1,100	C
<低木・株物類>									ポテンチラベルナ	9.0				820	750	790	B
アカバメギ	15.0	0.5	0.25		2,800	2,600	2,800	D	ミズバシヨウ	9.0				2,500	2,300	2,400	D
アキグミ	15.0	0.5	0.30		2,600	2,400	2,600	A	ミソハギ	9.0				930	850	900	B
エゾムラサキツツジ	15.0	0.4	0.20		2,000	1,900	2,000	B	ミヤコグサ	9.0				1,200	1,100	1,200	C
カバレンゲツツジ	15.0	0.4	0.25		5,200	4,800	5,100	C	ミント類	9.0				820	750	790	C
キレンゲツツジ	15.0	0.4	0.25		6,000	5,500	5,800	C	ヨシ	10.5				1,900	1,800	1,900	C
シモツケ	15.0	0.4	0.25		3,100	2,900	3,000	D	ルビナス	9.0				930	850	900	C
タニウツギ	15.0	0.5		3本立	3,100	2,900	3,000	B									